

能登半島地震からの教訓

能登半島地震が発生して2ヶ月ほどが経過しました。連日、報道されている被災地の状況から学べるのではないかと考えてみました。



◆避難所避難か在宅避難か

(1) 佐倉市において想定される被害

能登半島の被災地で避難所生活を送っている方の声を拾ってみました。

- ・プライバシーがなく、トイレや食事のことで大変な不自由を強いられている
- ・三密で感染症が怖い
- ・自宅を離れていると空き巣に入られるのではないかと心配
- ・できれば、自宅に戻りたいが倒壊しているため戻れない



被害が大きかった輪島市では、当初、半分近くの住民が避難をせざるを得ませんでした。佐倉市では、東京湾北部地震を想定して2013年に防災アセスメント調査を行い、その結果が佐倉市のHPへ掲載されています。それによりますと、佐倉市では、最大震度5強から6弱が想定されており、志津地区では、9.1%の家屋が全壊または半壊の被害が想定されています。残りの91%の家屋はほとんど被害がなかったことになり、大半の方が在宅避難が可能ということです。耐震強度が弱かった昔と異なり、1981年に施行された新耐震基準では、震度5強程度では軽微な損傷、震度6強でも損壊は免れる程度に強化されています。



旧耐震基準

震度5強で
倒壊の可能性



新耐震基準

震度5強程度で
軽微な損傷

旧耐震基準で建てられた家屋や液状化が心配される場合は、耐震診断をして必要ならば耐震補強をお勧めします。以上のことから、中志津では新耐震基準で建てられた家屋では、多くの場合、避難所避難ではなく、在宅避難を前提として備えた方が良いことになります。

(2) 避難所の収容人数

中志津で広域避難所として指定されている避難所は下志津小学校(558人)、南志津小学校(473人)、上志津中学校(839人)となっています。1区から4区までの住民5,280人の10%程度しか下志津小学校では受け入れることが出来ません。実際には周辺の住民の皆様も避難することを想定すると損壊を免れた家の方を受け入れる余地はほとんどないことになります。

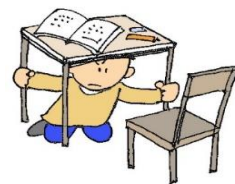


◆在宅避難の際に必要なこと

(避難所避難については、様々なメディアで報道されているため省略します)

(1)まずは自助！

- ①事前に出来る事
 - ・家具の倒壊防止
 - ・家財道具の配置
 - ・消火器設置
- ②地震発生時取る行動
 - ・机やテーブルの下か、柱の側で揺れが収まるまで待機
 - ・玄関や窓の開放
 - ・火の始末



(2)在宅避難で大切なこと

以下に挙げた物品以外にも沢山ありますが在宅避難生活で特に必要な物品を挙げてみました。

①食料の確保

- ・冷蔵庫は最大の食料備蓄庫です！
冷蔵庫は絶対に倒さない。事前に移動防止および転倒防止をすること。
- ・レトルト食品や飲料水を最低3日間程度の備蓄が必要。



②トイレ対策

トイレは我慢できません。携帯トイレは必須です。
1人・1日5回として10日間では50回分が必要になります。



③ガスのカセットコンロは必需品

大地震が発生すると電気・ガス・水道がストップします。
調理はカセットコンロが頼りです。



④灯りの確保

懐中電灯、ヘッドライトも必要ですが、できれば、懐中電灯とランタンの両方を兼ね備えた2ウェイLEDランタンがお勧め。



2ウェイLEDランタン

⑤その他

- ・トイレトーパー
南海トラフ地震が発生すると製紙工場が立地する静岡県が被災し、深刻な供給不足が想定されています。
- ・給水バッグ・・・能登半島地震では半数程度の方が持っていませんでした。
- ・現金・・・システム障害等により電子マネーは使えなくなる可能性があります
ただし、大金は自宅に置かないこと。盗難や焼失の可能性があります。
- ・携帯ラジオ・・・停電時に情報を得るのに最も頼りになるのは携帯ラジオです。
スマホは電池切れになり、長時間の使用は期待できません。
- ・乾電池・・・東日本大震災の際も乾電池はすぐに店頭から消えました。
- ・車から給電・・・EV車やHEV車は強力なバッテリーになります。
アクセサリコンセント付きの車であれば1500Wまで電気を
取ることが出来ます。



給水バッグ



※上記以外にも沢山ありますが、見落としがちな防災用品を
列挙しました。

ひとつひとつ揃えることが面倒な方は、必要な防災用品が
入った防災セットを購入する事も出来ます。
インターネットやホームセンターで購入できます。

防災セット



(3)在宅避難者に対する共助

- ・発災時は近隣の住民同士で安否確認をお願いします
- ・その次に防災会員により安否確認情報を収集・整理し、支援内容・支援方法を確認した上で支援活動を行います。
- ・その後は、防災会員を中心に地区住民の協力を得て、定期的に在宅避難宅を訪問して情報提供と必要な支援を行います。



◆防災に関するお願い

高齢化する在宅防災会員（昼間は仕事など若手不在）の活動を効果的なものにするためにも「住民一人一人が常日頃から自分でできる防災対策に努めること」をお願いします。

◆防災会員の募集……防災会員が不足しています！

貴方が被災した際に誰が助けに駆けつけてくれるのでしょうか。先ずはご近所さんであり、その次は防災会員になるのではないのでしょうか。実際に能登半島地震では防災会が重要な役割を果たしました。中志津三区には、現在、31名の防災会員がいますが平日の昼間に災害が発生した際に活動を期待できるのは、高齢者を中心とした15名程度です。この人数では、「救える命を救うため」の機敏で組織的な防災活動を期待することは困難です。同じ中志津三区に住む仲間として、少しでも防災活動に興味がありましたら、是非とも区長までご連絡をお願いします。いつ来るか分からない大災害に備えて。

募集！